

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO-GREEN

東京グリーン

CHARTERED 1973

<VOL. 524 2016.11 >

BULLETIN

2016年7月～2017年6月



国際会長
アジア会長
東日本区理事
関東東部部長
クラブ会長

Joan Wilson「私たちの未来は、今日から始まる」(カナダ)
Tung Ming Hsiao「ワイズ運動を尊重しよう」(台湾)
利根川恵子「明日に向かって、今日動こう」(川越)
片山 啓「組み合わせられ、結び合わされて、造り上げられてゆく」(茨城)
浅見隆夫「親睦なくして奉仕はない」(グリーン)

会 長 浅見 隆夫
副 会 長 西澤 紘一
書 記 目黒 卓
会 計 平林 正子
監 事 柿沼 敬喜
担当主事 花井 雅男

11月 アドベント

あなたの耳をわたしに傾け、急いでわたしを救い出してください。

(詩編31:3)

<私たちが犯してしまう罪を赦してくださいとイエスさまを送って
くださるクリスマスが早く来ますように>

2016年11月 第一例会

日時:2016年11月16日(水) 18:30～20:30
場所:千代田区和泉橋区民館 2階
千代田区佐久間町 1-11 TEL03-3253-4931
受付:古平君/司会:高谷君
開会点鐘 浅見会長
ワイズソング・ワイズの信条 全 員
聖句・お祈り 古平君
ゲスト・ビジター紹介 浅見会長
食事 ニコニコ(一言添えて)

ゲストスピーチ 紹介 西澤 君
東日本区 あずさ部部長 浅羽俊一郎 氏
(直前ユース事業主任)
演題 「ユースリーダーの皆さんと
ワイズの皆さんに期待する」

Happy Birthday<11月 メン1名 メネット2名>
YMCA 情報 花井 君
ニコニコ発表 浅見 君
閉会点鐘 浅見会長

～ワイズ理解 / F F 強調月間～

ワイズメンズクラブにどなたかを入会勧誘しようとするならば、ワイズとは、クラブとは、YMCAとは・・・ということを分かりやすく説明する必要がある。「YMCAは、キリスト教を基盤にした、119の国と地域、5800万人の会員を有する世界最大の青少年教育団体。日本のYMCAは118の拠点、約10万人の会員が活動している。ワイズメンズクラブはそのYMCAの活動を支援し、地域、国際社会に奉仕するボランティア団体。世界では72ヶ国、1600以上のクラブ、約3万人が奉仕活動を行っている。日本では約150を超えるクラブ、約3000人が東西に分かれて活動している。その活動の具体的事例、中身は……。そして試しに例会に、また行事と一緒に参加しませんか」というのが標準的な会話でしょう。

10月の関東東部部会の講演で同盟のブランディング担当から示された、<ブランドコンセプト>の内容を、早速、上記の会話に加えてみてはいかがでしょうか。

「ワイズクラブへ参加してみれば、自分がしたい何かが見つかり、クラブの仲間とつながる。自分がよくなる、かけがえのない時間・場所になる。また、互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創ることを目標として、大きく心をひらき、皆と分かち合う。前向きで、まわりを惹き付ける魅力のあるワイズメンを目指して自己啓発、自己研鑽に努める。こんなクラブライフを一緒に楽しみませんか。いかがでしょうか。すでに皆様実践されていてそうですね。

(布上 記)

*グリーンで決めたユース月間としての例会。
今月はゲストがたくさんいらっしゃいます。

【例会出席率】 在籍:17名(含広義会員1名) メーキャップ 2名 出席率 14/16 88%

出席:9月例会(グリーンメン12名、メネット2名)計14名

【ニコニコ】 10月例会 12,000円 累計 50,000円

関東東部第20回記念部会

<2016年10月 第一例会報告>

日時:2016年10月19日(水)18:30~20:30
場所:千代田区和泉橋区民館 2階
出席:青木・浅見(ク)・浅見(隆)・稲垣(勝)・柿沼・古平・佐野・高谷・西澤・布上・花井・平林(メネット)稲垣(重)・布上(信)



今月はメンバー・スピーチとして佐野 守メンにご登場願った。佐野メンは皆さんご存知の通り、YMCA のリーダーOBであり、卒業後本業のバンカーとしてのお勤めの傍ら、ボランティア活動を「障がい者スポーツ」という分野で大変な活躍をされている。専門の卓球コーチ・アドバイザーを務め、東京都障がい者指導員、理事として、また、パラリンピックへの選手派遣に協会の委員として尽力しています。

お話は「障がい者」の定義、分類、スポーツとのかかわり、そしてパラリンピックの歴史・・・等々、配布したレジュメには多岐にわたる項目があったが、佐野さんらしく、小冊子は読んでおいてね・・・ということで、もっぱら、障がいを持つ子供たちとの触れ合い、対応の苦労話、などでアツという間の50分でした。改めて佐野さんの人間力に感じ入った次第。またまた佐野さんを見直しました。

今月の誕生日お祝いは高谷メン、古平邦子メネット、柿沼澄子メネットの3名でした。今月はビジターもなく、閉会、解散となりました。



***** (布上 記)

<2016年10月第二例会報告>

日時:2016年10月12日(水)18:30~20:00
場所:千代田区和泉橋区民館 4階
出席: 青木・浅見(隆)・浅見(ク)・柿沼・平林・目黒布上・花井

<審議・報告事項>

- ・10月15日(土) 関東東部20周年記念部会 つくば
- ・ 19日(水) クラブ第一例会 佐野メンスピーカー
- ・ 20日-24日 昌平小学校課外授業 乗船会
- ・ 22日(土) グランチャ東雲ふるさと秋祭り 参加
- ・ 25日(火) 東京 YMCA 午餐会
- ・ 29日(土) 第73回神田川船の会 4艘出船
- ・11月4日~11日「定年時代」クルーズ 詳細
- 19日(土) 関東東部 第2回評議会

Happy Birthday

11月 塩入公之助(メン) 平林正子(メン)
青木 勝巳

クラブの円滑な運営のため、年会費をお納め下さい
(2016-17年度 会計:平林正子)

みずほ銀行・戸越支店(普通 2208674)

(口座名)東京グリーンワイズメンズクラブ



期日:2016年10月15日(土)13:00~19:00
会場:つくば国際会議場 / ホテルグランド東雲

片山啓関東東部部長はじめ、茨城クラブの皆様企画、進行による印象深い、実のある部会、懇親会になった。基調講演の山田公平氏、有田征彦氏、ともに重要なワイズの現状と今後を語られ、特に「ブランドコンセプト」の昨年までにまとめられた内容を発表された事は参加者の意識の中にYMCAに対する前向きな期待感を持たせ、さらに責任感も改めて持たせたのでは、と思った。



合同例会としての分団では、6グループに分かれ、我々は所沢クラブ、東京ベイサイドクラブと組んで「ワイズのあり方」などを討議、ベイサイドが代表で発表された。



メネットもグループを作って真剣に討議していた。記念写真などの後、会場をホテルグランド東雲へ。懇親会が始まり、乾杯、挨拶の後、各クラブからの活動の発表がスライドを使って行われた。



食事の時間に「レス&ギル」のバンドによるライブが披露された。中々のヴォーカルで、楽しめた。

今回は総勢70名程度の参加者。和やかに盛大に素晴らしい会になった。グリーンクラブ参加者:青木・浅見(隆)・浅見(ク)・佐野・柿沼・布上(征)・布上(信)の7名。

(布上 記)

昌平小学校：課外授業（船の会）開催

毎年恒例になっている4年生を対象とした昌平小学校船の会が10月20日(木)に事前講義と24日(月)に船の会が開催され、グリーンクラブからは、講師兼ガイドとして稲垣、平林両メンと柿沼の3人が参加しました。



20日の「事前講義」には2クラス合同で生徒が出席し、10時40分から45分間の授業でしたが、拡大した航路図と配布した「諸注意の確認」の資料を基に、江戸の町作り、川の役割、川の汚れの原因、EM団子等について説明を行いました。生徒は歴史に興味をもっているようで、戦国時代の武将の名前に関する質問に対しては活発に答が返ってきました。



24日の「船の会」は、生徒43名、先生3名の計46名が乗船し、薄曇り空の中、9時に特別の許可を得た和泉橋防災棧橋より、神田川を上り、日本橋川に入りましたが、高速道路の高架が続く間は日陰で気温が低いためか、生徒達の中から「寒い、寒い」という声があがり、我々のガイドの説明もあまり耳に入らない状況でした。高架下を抜けた隅田川、小名木川に入ると元気を取り戻し、閘門体験では敢えて傘も使わない元気な生徒もありました。その後はガイドからの質問やクイズにも積極的に応答し、終り近くなると橋を潜る度に生徒全員で声を出すまでになりました。最後は担任先生からの号令で全員姿勢を正し、我々に元気に、お礼の挨拶をしてくれて無事終了となりました。

私としては、小学4年生に久しぶりの講義とガイドでしたが、自分が同年齢の時と比べて、生徒達のしっかりとした受け答えに感心させられた課外授業でした。(柿沼記)



グランチャ東雲 ふるさとチャリティ秋祭り



2016年10月22日(土)にグランチャ東雲ふるさとチャリティ秋祭りが開催されました。9:00~16:00。

昨年までは、グランチャ東雲「夏まつり」として盛大に行っていましたが、何とも、厳しい酷暑のなか、近隣の皆様、幼稚園の生徒、親御さん・・・数千名の入場者で、高齢者の多いワイズクラブでは日射病に罹るところも出てきました。そのせいか・・・今年は秋に開催ということです。

グラウンドでは模擬店多数出店、全館を使って諸々のおもちゃ類の販売、ゲーム、遊び場、などなどで、なんと来場者数は主催者発表ではありますが3,600名という多くの方に集っていただき、今年も大いに盛り上がりました。

グランチャ東雲は行政(江東区)との協働事業なので、東京YMCAが本来持つ使命をストレートに体现することが難しい場合が多々ありそうですが、【コミュニティづくり=街づくり】という共通点を通して、YMCAらしい事業展開を目指してがんばっています。

グリーンと北クラブ合同で「ドリンク販売」をいたしました。売れ行きは上々でした。

北クラブ辰馬メン、グリーン浅見、布上が参加しました。

(布上 記)

第74回神田川船の会 開催

10月29日(土)、曇空の下「第74回神田川船の会」が開催された。例年より少し遅い開催だったので当日は気温が低く、肌寒く感じたが午前・午後で200名近い乗船者が集まった。千代田区・中央区・江東区の親子を始め、写真の会、歴史の会等、様々な団体の参加があり、皆ガイドの説明に耳を傾けていた。

運営サポートはグリーンワイズメンズクラブをはじめ、サポーターの方々、大学生ボランティアやYMCA職員など、総勢33名での運営となった。東京水辺ラインのスタッフからも、統率のとれた運営で、安心できるとのお墨付きも頂いた。

前回より参加している大学生ボランティアの参加は、大きな原動力となっている。参加した大学生ボランティアから参加して良かった、楽しかった、お役に立ててうれしかった等のコメントも頂いており、グリーンクラブのCS活動がYMCAのユースを育成できる場所としての役割を担っている事を肌で感じる事が出来た。

次回は来年5月の開催だが、今回同様に様々な年代のボランティアの関わりを一層深め、「神田川船の会」を安全に運営したいと感じた。

(花井 記)



角川文庫(ダン・ブラウン)

従来、地球の人口爆発を調整してきたのは流行病の蔓延である。1300 年ごろの世界は、人口過剰による飢餓と貧困にあえいでいた。そんな時、黒死病が大流行して欧州の人口が 1/3、中国の人口が 2/3 に激減した。このときは、富める者も貧する者も平等に死に追いやられた。

た。皮肉なことにその結果、ルネッサンスの華が咲いたと言われている。

この小説では、遺伝子工学の天才でありかつ大富豪でもあるゾプリストなる人物が、ある生物兵器を発明し、これを人口爆発を抑える手段として利用しようと試みたことから物語が始まる。その生物兵器を特定の日に拡散させるべくある場所に隠して、本人は自殺してしまう。その隠し場所を巡って WHO のシンスキー、過去ゾプリストに共鳴して組んでいた医師シエナ、ゾプリストが保護を求めた大機構総裁などがその発見を競う。自殺したゾプリストの金庫からプロジェクトが発見され再生するとダンテの神曲地獄編を描いたポッチチエリ地獄の見取り図が現れる。その絵の中に隠し場所のヒントがあるとにらんだシンスキーが宗教象徴学の専門家であるラングドンが無理やりフィレンツェに引っ張り出す。ゾプリスト一派から暗殺を狙われ、一時記憶喪失となったラングドンは、シエナと共に生物兵器の発見を急ぎつつ追っ手から逃げ回ることとなる。フィレンツェからベネチア、最後にイスタンブールまでたどり着きようやくアヤソフィア大聖堂の地下貯水池が隠し場所であることを突き止める。しかし、その生物兵器はすでに開放されており、ウイルスは世界に拡散しつつあった。どんな生物兵器であったかは小説を読んだからのお楽しみである。

人の命は地球より重い、病気の人を癒す行為は尊い人道的行為であると言われる。しかし人口爆発と言う制御不能な現象に対しては我々は無力であろう。人口が地球の一定の容量である閾値を越えれば、ダンテの描く地獄編が現実となり人類は生き残れない。過去には、恐竜絶滅の例がある。しかし今後、黒死病のような死に至る病が大流行する確率はきわめて小さい。なぜなら医学の進歩と衛生状況の革新が進んでいるからである。全体と個の問題をこれほど深刻に提示した小説は過去にはない。

1300 年流行した黒死病と当時のベストセラー、ダンテの神曲をモチーフに、よくもこんなショッキングなストーリーを考えたものである。敵味方がめまぐるしく変わり、展開が速い。ブラウン独特の紀行文的描写が華を添えており、フィレンツェの歴史的建造物など、読者の旅の思い出と重ね合わせると臨場感がより鮮明に出てくる。神がこの世界を如何に創造されたのか、そして世界の終末をどう考えておられるのかが問われているように思う。

(西澤 紘一記)

- ▼ 10 月 8～11 日、「第 19 回日本 YMCA 大会」が東山荘で開催された。全国から 311 名の関係者(うちユース世代 160 名)が集い、東京からも 22 名の職員や会員、レイパーソン、ワイズメン、ユースリーダー等が参加した。今大会では、ユース世代が実行委員として大会の企画、広報、運営のすべてを担い、「ユースエンパワメントを加速する～私たちの活動が社会を変える」をテーマに、活発な意見交換や全国の事例報告が行われた。大会期間中は、東山荘新本館の献同式および継続会員賞や勤続者賞などの表彰式も執り行われた。
- ▼ 10 月 10 日(体育の日)、第 33 回会員ソフトボール大会が出版健康保険組合大宮運動場にて開催された。会員、賛助会企業、近隣 YMCA、学生ボランティア、職員等併せて 15 チーム 216 名の参加があった。晴天の中、白熱した試合が行われ、賛助会企業のジョンソンコントロールズ(株)よりチーム「ジョンソン・ブルー」が優勝の栄冠に輝いた。
- ▼ 10 月 13～16 日、香港中華 YMCA 115 周年記念式典が開催された。アジア各国から総勢 600 名が香港に集い、東京からは菅谷淳副総主事、星野太郎財務部主任主事が出席した。和やかな雰囲気の中で、礼拝、基調講演、晩餐会、表彰式等が執り行われ、参加者同士の交流が深められた。
- ▼ 10 月 31 日～11 月 2 日、「第 19 回ソウル・台北・東京 YMCA 指導者協議会(STT)」がリッチモンドホテルプレミア東京押上を会場に開催された。今回は東京 YMCA が主管となり、3 つの YMCA から理事・監事・評議員・運営委員・ワイズメン等、67 名の参加があった。基調講演は、アジア・太平洋 YMCA 同盟元総主事の山田公平氏に「高齢社会における YMCA の役割」をテーマにお話しいただいた。その他、各 YMCA の報告、児童・高齢者総合施設としてのグランチャ東雲施設見学、都内観光等を通じて、アジアに連なる大都市 YMCA の連帯、交流がはかられた。
- ▼ 東京 YMCA が港区の指定管理者として 2007 年から運営している「芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ」と「芝浦アイランドこども園」が開設 10 周年を迎えた。公募による選考を経て、「交流プラザ」は来年度からの 5 年間、「こども園」は 10 年間の運営継続を決定した。今後も港区のコミュニティーの核としての働きが期待されている。
- ▼ 11 月 26 日、山手センターにて「ソシアスフォーラム」が開催される。今年は中期計画とブランディングをテーマに参加者同士で東京 YMCA の未来を語り合う予定。
- ▼ 今年の「世界 YMCA / YWCA 合同祈禱週」は、11 月 13～19 日となる。テーマは、「誰も置き去りにしない “Leaving No One Behind”」。東京 YMCA は、11 月 17 日に東京 YWCA、在日本韓国 YMCA と共に合同祈禱会を開催の予定。(担当主事 花井 記)